

ひとり親家庭等自立促進計画の一部改定に係るアンケートの実施について

1 アンケートの目的

(1) アンケートの目的とポイント

札幌市内のひとり親家庭等の生活全般の状況や意識に関する調査を行い、課題等を明らかにし、計画の一部改定の施策の検討における基礎データとする。

【調査項目検討にあたってのポイント】

- 過去からの状況の変化の確認と第4次自立促進計画における成果指標の評価
- アンケート実施時における新たな課題等の確認

成果指標を評価するための質問を中心としつつ、新たな質問の検討を行う

2 第4次計画概要

(1) 計画体系

基本理念 ひとり親家庭等の生活の安定と向上、その子どもたちの健やかな成長				
	基本目標	アンケート結果	基本施策	事業例
1	子育て・生活支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○子育てと生計維持をひとりで担っている ○子育て、家事、仕事等の生活全般で様々な困難を抱えており、今後の生活への不安を感じている ○相談相手がいない割合が高い ○大学への進学率が一般世帯と比較して低い 	<ul style="list-style-type: none"> ①子育て支援の推進 ②生活支援の推進 ③子どもの育ちと学びへの支援の推進 	区の相談窓口の設置、学習支援ボランティア事業など
2	就業支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○(特に母子家庭)就業率は高いものの正規雇用の割合が低い ○雇用や身分の不安定さが今後の生活の不安 ○子育てのための時間の確保が困難であること ○資格を持っていない方の正規雇用の割合が極めて低い 	<ul style="list-style-type: none"> ①就業相談・就業機会創出等の推進 ②資格・技能習得等の支援の推進 ③女性のための就業支援の推進 ④働きやすい環境づくりの推進 	ひとり親家庭支援センターでの就業支援、就業機会創出事業など
3	養育費の確保及び適切な面会交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○養育費の確保が進んでいない ○養育費及び面会交流の取決状況は改善されているものの依然として低い割合 ○離婚時に養育費や面会交流について誰にも相談していない方が多くいる 	<ul style="list-style-type: none"> ①養育費及び面会交流に関する相談体制の強化 ②養育費及び面会交流に関する広報・啓発活動の推進 	養育費及び面会交流に関する相談、広報啓発など
4	経済的支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○多くが経済的に困難な状況にある。 ○年間総収入・年間就労収入ともに低い傾向にあること 	<ul style="list-style-type: none"> ①給付型支援の実施 ②経済的負担の軽減 	高等職業訓練促進給付金事

		○主な収入を生活保護費としている方が多くいる	③貸付金による支援の推進	業、札幌市特別奨学金など
5	利用者目線に立った広報の展開	○多くの支援制度について、前回調査（H24）よりも認知度が低下 ○支援を必要としている方に、必要な情報が届いていない	①利用者目線に立った広報の展開	制度紹介のパンフレット作成、子育て情報サイト運営など

(2) 成果指標と関係質問

ア 計画全体の成果指標

【今後の生活（経済的・子育て等）に不安のある方の割合】

	H24年度	H29年度	R4年度（目標値）	関連質問項目
母子家庭	94.0%	88.0%	80.0%	あなたは、今後の生活（家計や子育て等）に不安を感じていますか。 1. 感じている 2. どちらかといえば感じている 3. どちらともいえない 4. どちらかといえば感じていない 5. 感じていない
父子家庭	91.2%	84.4%	80.0%	
寡婦	84.2%	66.0%	60.0%	

イ 基本目標1（子育て・生活支援の充実）の成果指標

①【子どもに対して悩みを持っている方の割合】

	H24年度	H29年度	R4年度（目標値）	関連質問項目
母子家庭	84.9%	80.9%	70.0%	あなたのお子さんに関する悩みについて、あてはまるものすべてを選んでください。 1. 発達・健康 2. 教育・進路 3. しつけ 4. 学校での生活 5. 交友関係 6. 非行・不良行為 7. 会話の時間が持てない 8. 親子関係 9. 不登校・ひきこもり 10. その他 11. 特になし ※上記選択肢は小学校低学年の子用を例示
父子家庭	80.4%	79.9%	70.0%	

②【18～19歳世代の大学進学割合】

	H24年度	H29年度	R4年度（目標値）	関連質問項目
ひとり親家庭	-	26.0%※	38.0%	あなたが、お子さんに期待する最終学歴について選んでください 1. 中学校 2. 高校 3. 高専・専門学校等 4. 短大 5. 大学 6. 大学院 7. わからない 8. その他

※H29年度の実態については「子の年齢、性別、同居の別、就学・就労状況」を確認する質問で確認。目標値は関連質問項目の回答結果から設定

ウ 基本目標 2（就業支援の充実）の成果指標

①【仕事に対して悩みを持っている方の割合】

	H24 年度	H29 年度	R4 年度（目標値）	関連質問項目
母子家庭	91.2%	91.9%	80.0%	あなたの現在の仕事への悩みや不安について、あてはまるものすべてを選んでください。 1. 朝が早い 2. 帰りが遅い 3. 通勤時間が長い 4. 勤務時間が長い 5. 子の送り迎えの時間と合わない 6. 残業が多い 7. 夜勤や交代勤務がある 8. 収入が少ない 9. 資格を活かせない 10. 雇用や身分が不安定 11. 昇給・昇進が遅い 12. 仕事の内容が合わない 13. 職場の人間関係 14. 子どもと接する時間が持てない 15. 休みが取りにくい 16. その他（ ） 17. 特にない
父子家庭	88.7%	90.8%	80.0%	
寡婦	84.4%	81.6%	70.0%	

②【就業している方の中の正社員・正職員の割合】

	H24 年度	H29 年度	R4 年度（目標値）	関連質問項目
母子家庭	36.2%	35.2%	45.0%	あなたの現在の雇用形態について、主なもの 1 つに○をつけてください。 1. 正社員・正職員 2. パート・アルバイト 3. 派遣社員・契約社員 4. 会社・団体等の役員 5. 自営業 6. 家族従事者 7. 内職・テレワーク（在宅勤務） 8. 働いていない 9. その他（ ）
父子家庭	54.6%	58.8%	62.0%	

エ 基本目標 3（養育費の確保及び適切な面会交流の推進）の成果指標

①【養育費の取決めをしている方の割合】

	H24 年度	H29 年度	R4 年度（目標値）	関連質問項目
母子家庭	47.9%	52.6%	60.0%	あなたが離婚したとき、養育費の取決めをしましたか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。 1. 養育費の取決めをした 2. 養育費の取決めをしていない
父子家庭	17.6%	21.0%	30.0%	

②【面会交流の取決めをしている方の割合】

	H24 年度	H29 年度	R4 年度（目標値）	関連質問項目
母子家庭	24.3%	36.5%	40.0%	あなたが離婚したとき、面会交流の取決めをしましたか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。 1. 面会交流の取決めをした 2. 面会交流の取決めをしていない
父子家庭	23.7%	35.5%	40.0%	

オ 基本目標 4（経済的支援の推進）の成果指標

【家計の状況がぎりぎり又は赤字である世帯の割合】

	H24 年度	H29 年度	R4 年度（目標値）	関連質問項目
ひとり親家庭	-	78.2%	65.0%	別の統計資料「平成 28 年度札幌市子ども・若者生活実態調査」から引用

カ 基本目標 5（市民目線の広報の展開）の成果指標

【支援制度の認知度（母子家庭）】

	H24 年度	H29 年度	R4 年度（目標値）	関連質問項目
母子・婦人相談員	43.4%	36.0%	46.0%	これらの制度を利用したことがありますか。それぞれについて、「利用したことがある」「利用したことはないが、知っている」「知らない」のいずれか 1 つに○をつけてください。
母子・父子・寡婦福祉資金貸付金	37.7%	33.0%	43.0%	
自立支援教育訓練給付金	31.9%	37.0%	47.0%	
高等職業訓練促進給付金	38.4%	26.4%	38.4%	
高等職業訓練促進資金貸付金	-	23.7%	33.7%	
高等学校卒業程度認定試験合格支援事業	-	11.7%	21.7%	
母子生活支援施設	-	35.2%	45.2%	
ひとり親家庭支援センター	44.8%	34.9%	44.9%	
ひとり親家庭等日常生活支援事業	30.3%	19.9%	30.3%	
学習支援ボランティア	-	26.9%	36.9%	

(3) 前回アンケート調査数

3,400 世帯（母子 2,500、父子 500、寡婦 400）に対して、アンケート調査を実施。

3 新たな課題について

ひとり親家庭等を取り巻く環境において、生活に大きな影響を与えていると考えられる項目を新たな質問として検討。

【追加項目案】

- 新型コロナの影響
- 物価高騰関係
- 心身の健康関係